



衣 Fashion





メキシコシティのファッション

メキシコシティはメキシコ国内の流行の中心地であり、近年、大型ショッピングセンターやデパートの建設が進み、ライフスタイルの急速な近代化がみられている。

1990年代以降の自由貿易協定（FTA）ネットワークの拡大と一般関税率の引き下げにより、アパレル産業では輸出と輸入が双方向で拡大し、メキシコ製衣類の対米輸出拡大に加え、世界中で生産された衣類がメキシコ国内にも流入するようになった。欧米の有名ブランドのほとんどはメキシコに進出しており、ショッピングセンター内や市内ポランコ（Polanco）地区のマサリク（Masaryk）通りにあるブティック街などに店舗を構えている。

メキシコシティではスペインのブランド

「ZARA」が比較的人気がある。ZARAは新しく建設されたショッピングセンターならほとんどどこにでも店舗を構えている。高級ブランドではないため、富裕層でなくとも購入可能な価格帯が幅広い消費者層にうけている。

メキシコの国内ブランドはそれほど強くないが、グアナファト州レオン市を中心に皮革・履物産業の集積があるため、革靴の国内ブランドはいくつか存在する。「Hush Puppies」や「CAT」のOEM生産を手掛ける「Emiko」

（自らもEmikoブランドを展開）、Cole HaanのOEM生産を手掛ける「Quirelli」（同上）、カジュアルスタイルの革靴を得意とする「Flexi」などが代表的なブランドだ。メキシコ独特のデザインとしては、1995年にクリスティーナ・コバリン（Cristina Covalin）が創設した「Pineda Covalin」（<http://www.pinedacovalin.com/>）が有名であり、スペイン人到来前（Prehispanic）の先住民芸術と現代芸術をミックスさせた独特のデザインが特徴的である。Pineda Covalinのデザインを用いたネクタイやスカーフなどは市内の専門店に加え、メキシコ市国際空港内の店舗でもお土産物として売られている。

メキシコシティのショッピングセンターとデパート

メキシコシティには、サンタフェ（Santa Fe）、ペリスール（Perisur）、パベジョン・ポランコ（Pabellón Polanco）、アンタラ（Antara）など大規模なショッピングセンターが数多く存在する。また、ソナ・ロサ（Zona Rosa）地区やポランコ（Polanco）地区はショッピング街として有名であり、特にポランコ地区のマサリク通りは「Louis Vuitton」、「Chanel」、「Bulgari」、「Hermes」など著名なブランドショップが連なるブティック街となっている。

サンタフェ・ショッピングセンターは、国内でも最も大きく、充実したショッピングセンターである。5,000台の収容能力を誇る駐車場を有するため、市内の各地から多くの買い物客が訪れる。4つのデパート（Palacio de Hierro, Liverpool, Saks Fifth Avenue, Sanborns）と300の専門店があり、アルゼンチン料理、イタリア料理など様々なレストランもある。ゴルフ練習場や映画館、子供向けアトラクションパーク「Kizzania」なども備えている。

現在、メキシコシティには大規模なショッピングセンターが約30カ所存在し、ショッピングセンター内には有名デパートが入っていることが多い。



メキシコシティの代表的なショッピングセンター一覧

中心街 (Centro)	中南部 (Centro Sur)
Parque Alameda Plaza Insurgentes Reforma 222 Pabellón Cuauhtémoc Plaza La Rosa	Plaza World Trade Center Centro Comercial Parque Delta Galerías Insurgentes Pabellón del Valle Plaza Universidad Centro Coyoacán

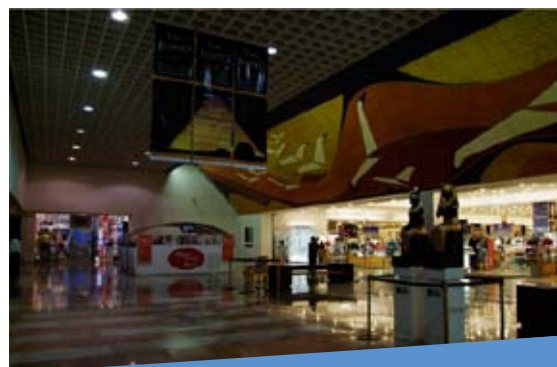
中西部 (Centro Poniente)	南部 (Sur)
Plaza Moliere 222 Pabellón Polanco Plaza Galerías Antara Polanco	Perisur Plaza Cuicuilco Centro Comercial Gran Sur Pabellón Altavista Plaza Inn Galerías Coapa Plaza Loreto

西部 (Poniente)	北部 (Norte)
Centro Comercial Santa Fé Parque Duraznos Centro Comercial Interlomas Magnocentro26	Plaza Lindavista

メキシコのデパートには、全国展開している全国チェーンとある一定地域でのみ展開している地方チェーンがある。全国展開している主なデパートは内資系のパラシオ・デ・イエロ (El Palacio de Hierro: 「鉄の宮殿」の意) とリベルプール (Liverpool)、米系のシアーズ (SEARS) である。ウォルマートなどハイパーマーケットタイプのスーパーは、日用品に加えて衣料や家電なども販売しているが、デパートは主に高所得層向け、スーパーは中低所得層向けの販売チャネルとなっており、品揃えやディスプレイはかなり異なる。

El Palacio de Hierroは、メキシコ第2の保険会社GNPや大手鉱山開発会社のペニョーレス (Industrias Peñoles) などを統合する企業グループであるGrupo BALの傘下にある。1891年にメキシコシティに1号店を開店した歴史ある企業であり、メキシコで最も高級なデパートとされる。店舗数は2009年末時点合計15店舗、そのうち総合デパートが10店舗、アウトレットが2店舗、家具などの家庭用品専門店の2店舗、直営ブティックが1店舗である。また、ショッピングセンターも2カ所経営している。高級チェーンのため、購買力の高い首都圏に店舗が集中しており、全売上に占める首都圏の割合は90%を超える。

Liverpoolは18世紀にフランスの商人が欧州 (イギリスのLiverpool港で船積み) からの輸入品をメキシコで販売するビジネスを開始したのが始まり。1936年にデパートとしての第1号店がオープン。商売を開始したのはフランス人だが、会社としてはメキシコ100%資本である。El Palacio de Hierroに次ぐ高級店だが、地方への店舗展開はPalacioより進んでいる。2009年末時点で79のデパートと16のショッピングセンターを経営している。



79のデパートのうち51店舗がLiverpoolブランドであり、23店舗はファブリカ・デ・フランシア（Fábrica de Francia）という高級店、残り4店舗は空港等の免税店である。

SEARSは米系小売大手SEARS Roebuck and Co. のメキシコ法人。1947年にメキシコ市に1号店がオープンした。1997年に世界第2の富豪カルロス・スリム氏の財団Grupo CarsoがSEARSメキシコの株式60%を取得したことでGrupo Carsoの小売部門Grupo Sanborns傘下となるが、SEARSの名称は保持している。2010年末時点で国内に72店舗を有する。

メキシコの3大デパート概要（2009年末時点）

	El Palacio de Hierro	Liverpool	SEARS
開業年	1891年	1936年	1947年
店舗数（店）	15	79	72
従業員数（人）	9,370	40,000	N.A.
売上高（100万ペソ）	13,865	47,004	17,132

（出所）各社年次報告からジェトロ作成

メキシコシティの気候とファッション

メキシコ市は北緯19度に位置し、アジアの都市ではベトナムのハノイと同様の緯度である。本来であれば熱帯性の気候であるが、標高が2,200メートルもあるために比較的涼しく、夏というよりは春のような気候が一年中続く。日本のような明確な四季はなく、4月下旬～10月までの雨季（夕方に1時間ほどスコールのような雨が降る）と11月～4月中旬までの乾季（雨はほとんど降らない）に分かれる。標高が高く、基本的に乾燥しているため、朝晩の温度差は大きく、最高気温と最低気温の間には10～15度の開きがある。

このような気候のため、メキシコシティのファッションには明確な季節感がない。11月末～1月にかけて比較的寒冷的な気候となるため、デパートなどでは冬物の衣類が売られているが、1月でも昼間は半袖のシャツを着ている人を見かけることが珍しくない。また、朝晩は比較的冷え込むため、8月でも朝は革ジャンを着ている人を良く見かける。メキシコ市で便利なファッションといえ、革ジャンなどの厚手の上着の下にTシャツなどの涼しい衣服を着るスタイルで、比較的涼しい朝晩は上着をはおり、気温が高い昼間は上着を脱いでTシャツ姿になるというように容易に体温調節ができる着こなしである。また、グアナフアト州やグアダラハラ州などに伝統的な皮革産業が存在するため、革を用いたファッションは豊富である。革製のブーツは男性、女性を問わず愛用されている。



メキシコ市民の着こなし。街角における市民のファッションは多彩だ。個性が重視される国民性のため、色彩も様々、デザインも様々である。





休日のファッション。冬でも昼間の気温は20℃を超えるため、昼間は半袖、夜は上着を羽織るとするのが一般的だ。休日の服装として、Tシャツとジーパンが多いというのは日本とあまり変わらない。休日はジョギングやサイクリングなどを楽しむ人も多いため、ジャージ姿の人も比較的多く見かける。





買い物を楽しむメキシコ市民。昨今は環境への配慮からエコバックも浸透しており、スーパーマーケットにエコバックを持って買い物に出かける人を見かけるようになった。なお、正規商店では買い物客に無料でプラスチック製の買い物袋を配るのは禁止されているが、生分解性プラスチックの袋であれば無料配布が許されている。





ショッピングセンター内の風景。メキシコシティには近代的なショッピングセンターが豊富に存在し、国際的なブランドの店舗が連なっているが、残念ながら日本のブランドではSony Styleなどを除いてほとんどない。

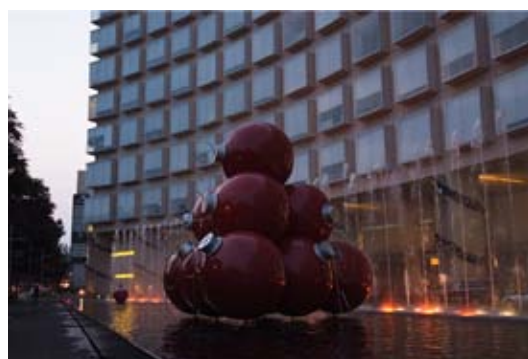


高級デパートやショッピングセンター内の風景。近年、ビールとテキーラを好むメキシコでも高所得層を中心にワインを楽しむ人口が増えており、高級デパートにはワインや洋酒を扱う店が必ずある。メキシコ産ワインのレベルも上がりつつあるが、まだ生産量が少ないこともあり、チリワインなど他の新世界ワインに比べると割高な印象を受ける。赤ワインの人気の方が高く、レストランなどでは料理が魚介類でも赤ワインを頼んでいるメキシコ市民を良く見かける。

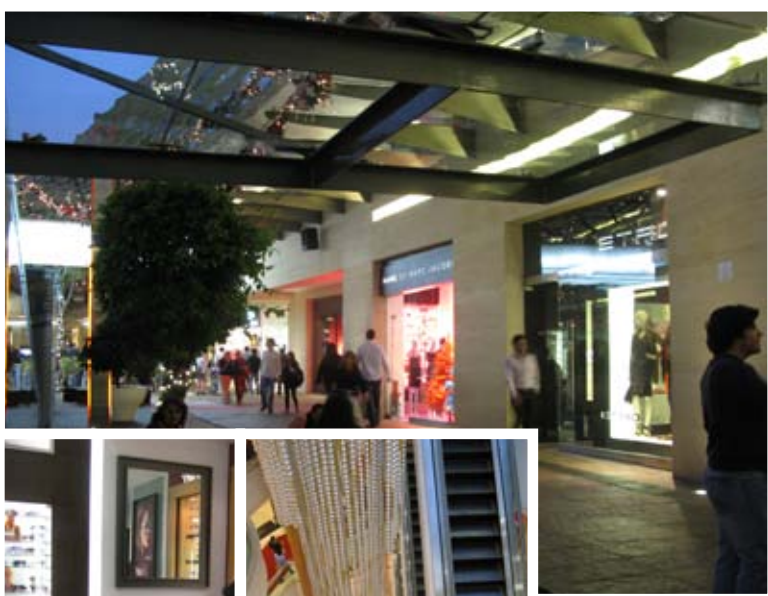


ショッピングモール内の小規模スタンド。時計やサングラス、アクセサリなどのスタンドが多い。





ポランコ地区に2006年5月にオープンした新しいショッピングセンター。富裕層が多い地区だけあって高級ブランド店が目白押し。映画館など娯楽施設に加え、オフィスビルも併設された複合施設であり、日本食レストランなどの高級レストランもある。





メキシコ市民もファッション雑誌が大好き。街角のキオスクではテレビや芸能雑誌と並び、ファッション雑誌が多く並べられている。メキシコでもスペインのアパレルブランドの「Zara」は人気だ。比較的手軽な値段が中所得層の顧客を引き付けている。

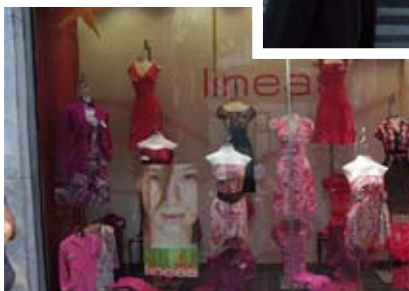
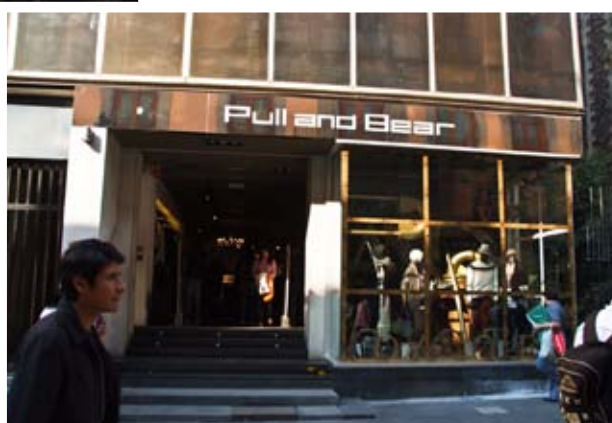
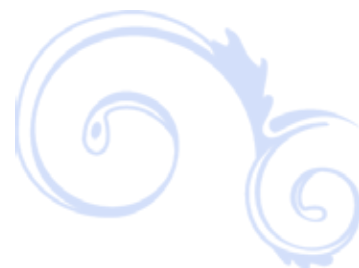


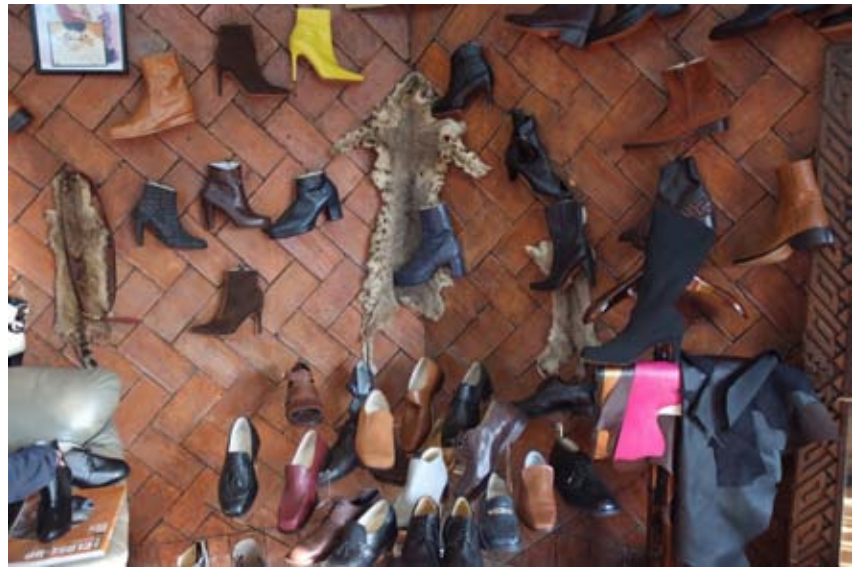


メキシコシティのパーティー衣装。
メキシコでもウェディングドレスは基本的に純白、結婚式に参加する家族は紫の衣装を着ることが多い。なお、女性の衣装を着ることが多い。なお、女性が15歳の誕生日を迎えたときには「キンセアニューラ (Quinceañera)」というお祝いをするのが一般的で、15歳になった女子は色の付いたドレスを着てパーティーを行う。



歴史地区（Centro Histórico）にあるショッピング街。昨今は歴史地区の治安が改善されたこともあり、週末には多くの買い物客で賑わう。

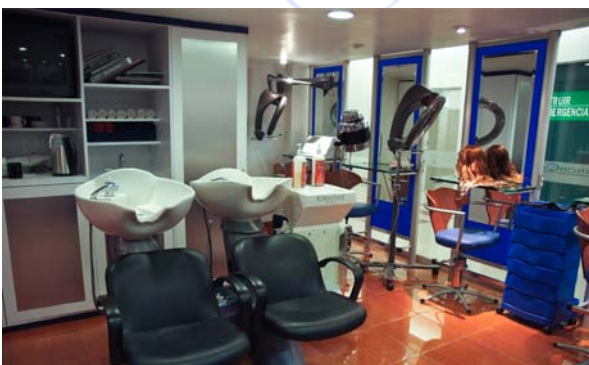
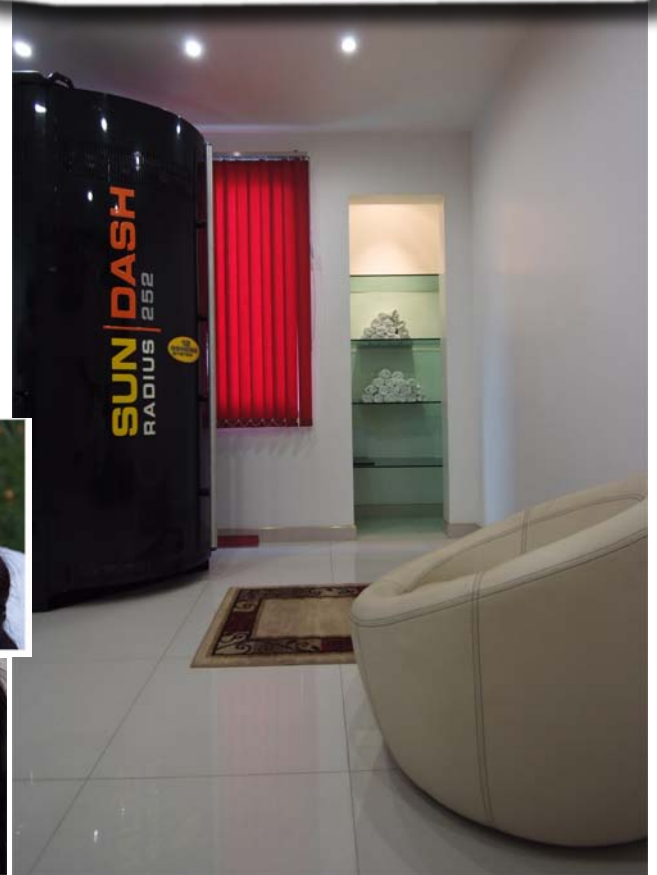
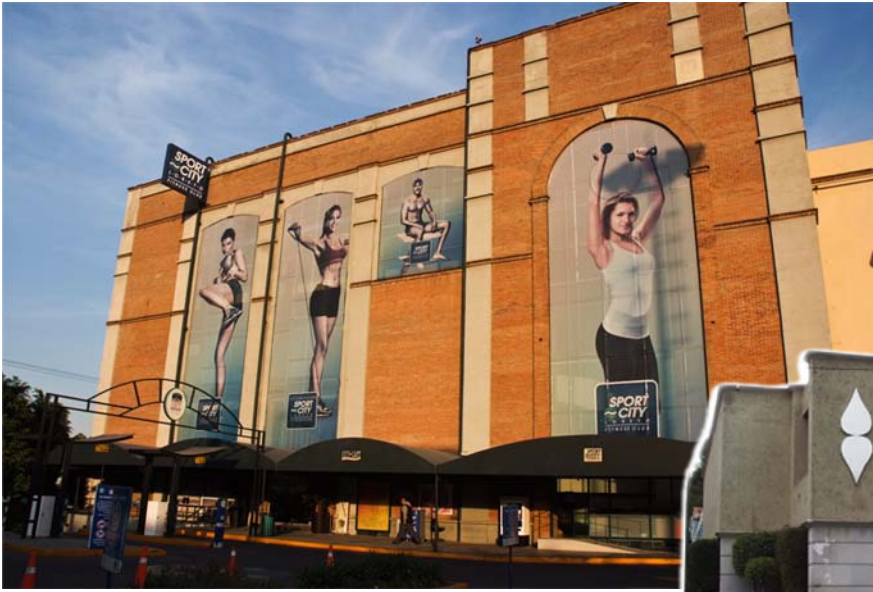




伝統的な衣料品店の風景。メキシコには革の文化があり、革靴や革ジャンなどを販売する店が多い。また、先住民の伝統を受け継いだ民族衣装も売られており、土曜日に開催されることが多い市内各地の青空市場では伝統工芸品を売る出店が出る。



女性を中心に美容への関心が高まっており、高所得層を中心にスパやマッサージなどに対する関心が高まっている。また、自然・天然志向も少しずつ広がりつつあり、天然素材のみを用いた化粧品や洗剤などを扱う店も増えている。



歴史地区の宝飾品専門店。歴史地区には金や銀などの貴金属を用いた宝飾品や時計を扱う店が多い。



